



共生の時代

'08
3月

●発行:グリーンコープ共同体理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



特定非営利活動法人 エスタスカーサ理事長

知足 文隆 さん

プロフィール
1972年佐賀市に生まれ福岡市で育つ。大学卒業後大阪にある視覚障がい者誘導システムの会社で4年間勤務。その後、福岡へ戻り、福祉作業所で働く。2004年NPO(特定非営利活動)法人エスタスカーサを立ち上げる。2007年6月同理事長となる。家族は妻と長女(6歳)長男(3歳)の4人暮らし

ありのままの自分でいられる居場所作りを!

知足さんは、大学で電子工学を学び、視覚障がい者誘導システムの会社に就職した。そこは機械を優先的に利用しようとするところ。しかし、仕事で視覚障がい者を誘導する場面に出会い、機械でやることには限界があるのではと疑問を感じた。機械を使うよりも障がい者を理解し、その人に寄り添うことが大事なのではと思うようになった。そんな時、福祉作業所のことを偶然知り、障がいを持つ人と一緒に何かを作り出す場所としての作業所に惹かれた。

知足さんは、大学で電子工学を学び、視覚障がい者誘導システムの会社に就職した。そこは機械を優先的に利用しようとするところ。しかし、仕事で視覚障がい者を誘導する場面に出会い、機械でやることには限界があるのではと疑問を感じた。機械を使うよりも障がい者を理解し、その人に寄り添うことが大事なのではと思うようになった。そんな時、福祉作業所のことを偶然知り、障がいを持つ人と一緒に何かを作り出す場所としての作業所に惹かれた。

「自分の居場所を探している人はたくさんいる。人をありのまま受け入れられる、そんな『場』をたくさん作りたい」と、知足さんは熱く夢を語る。

知足さんは、大学で電子工学を学び、視覚障がい者誘導システムの会社に就職した。そこは機械を優先的に利用しようとするところ。しかし、仕事で視覚障がい者を誘導する場面に出会い、機械でやることには限界があるのではと疑問を感じた。機械を使うよりも障がい者を理解し、その人に寄り添うことが大事なのではと思うようになった。そんな時、福祉作業所のことを偶然知り、障がいを持つ人と一緒に何かを作り出す場所としての作業所に惹かれた。

「自分の居場所を探している人はたくさんいる。人をありのまま受け入れられる、そんな『場』をたくさん作りたい」と、知足さんは熱く夢を語る。

予告!
グリーンコープ20周年
記念キャンペーンはじまります!



20年目のきょうも、
人と地球にやさしいアクション!

Contents

～六ヶ所再処理工場の本格稼働を阻止し放射能汚染を考える全国ネットワークの運動～

阻止しよう! 再処理 豊かな自然を未来につなぐために 2

うちのメーカー・うちの生産者 ②

佐伊津有機農法研究会 中晩柑 3

グリーンコープ共同体結成大会

グリーンコープ運動のさらなる飛躍をめざして
グリーンコープ共同体が本格始動 4・5

グリーンコープ青果生産者の会ネグロス視察・研修

ネグロスとグリーンコープの「農民」が初めて出会った 6

びん牛乳生産者女性部会との交流会

びん牛乳に込めた思いは同じ! 7

1月も終わりのある朝のこと。わが家の犬小屋の毛布の中に灰褐色の動物が眠っていた。見るとその風貌から狸のようだ。起こすけど起きない。これが狸寝入り? もしかして冬眠モード! しかし調べたところ、狸は冬眠しないらしい。小屋の主は13歳のポインターのメス。やや当惑の面持ちながら吠えもせず、寝床を譲り、前から居ついてる野良猫と3匹で身を寄せあっている。

送 信

弱っている。しばらく世話をすべし。鶴と山男は恩返しをするけど狸はなあ。えさもいっぱい食べるんじゃない? などとさもない算段をしている。山に食べるものがなくなり、えさを求めて里に来たのだろうか。しかし、翌朝には永遠の眠りについてた。狸は夢を見るのかな。心優しいイヌ科の仲間の傍で、安らかに眠ったことを願う。

菅嶋 教代
グリーンコープ生協おいた理事長

阻止しよう！再処理 豊かな自然を未来につなぐために

～六ヶ所再処理工場の本格稼働を阻止し
放射能汚染を考える全国ネットワークの運動～

六ヶ所再処理工場からは本格稼働前の試験運転の段階においても大量の放射能が海や空に放出されています。

「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク（以下、六ヶ所阻止ネット）は、豊かな自然、安心・安全な食べものを放射能汚染から守るために立ち上がった全国組織です。グリーンコープもその一員として、昨年7月の発足集会以降さまざまな取り組みを重ねてきました。その一つ、昨年全国的に展開した署名の取り組みでは、多くの組合員から再処理反対の思いを込めた署名が寄せられました。

1月27・28日に行われた署名提出行動のようすについて報告します。



一つひとつの取り組みが
本格稼働阻止へと
つながる

六ヶ所再処理工場の問題を広く知ってもらうために生協や消費者団体、生産者団体など全国の仲間が一丸となって運動に取り組んできました。昨年8月の青森集会は、現地で運動の難しさの中で必死に頑張る人たちに元気を与えることができました。その後のメッ

署名の提出先が内閣総理大臣と経済産業省大臣宛となつていくため、国会情勢を考えざるを得ません。首相の突然の辞任やねじれ国会における新給油法の制定などに揺れ動いていた国会の状況を鑑みつつ、六ヶ所阻止ネットの提出行動日を1月28日としました。

39万人の思いを
無駄にしないために

単なる署名提出に終わらせないために、再処理工場の問題を社会的にアピールするイベントとして、前日に大集会と街頭デモ行進に取り組みました。

それが東京・日比谷野外大音楽堂の「Nobody talks, Nothing Changes」集会。寒風吹き荒ぶ中、2,000人以上の人が集結しました。普段TVやマスコミでしか目にしない人たちも含め、さまざまなアーティストや国会議員が再処理反

対の意思表示をし、会場が一体となつて盛り上がりました。寒さも何のその！雲一つない青空の下で「再処理反対！」の思いでつながりあつた有意義な集会となりました。

同じ日、同じ日比谷公園の小音楽堂で同じように再処理に反対する若者の集会が開催されていました。一度は合同開催が模索されましたが、相互の主体を尊重して別開催に。当日は取り組みの連携をはかるため

に、六ヶ所阻止ネットから岩手県のあるコープとグリーンコープがこしま生協の鳥原理事長がエール交換をしました。街頭デモ行進は統一行動。日比谷公園から銀座を通り、日本橋まで一時間、約2,500人が道行く人たちにアピールしながら歩きました。

この度のアピール集会と署名提出行動には、重茂漁協をはじめ岩手県の6漁協とサーファアの団体（サー



内閣総理大臣宛の署名を提出する
共同体代表理事・吉田文子さん



「海や、空を、放射能で汚さないで！」とシュプレヒコールをあげながら道行く人に再処理工場の危険性を訴えた

院内集会で見てきたこと

前日のアピール行動を受けて、28日に署名提出のための院内集会を参議院議員会館で開催しました。定員100人の会議室に阻止ネット関係の参加者185人と国会議員16人、行政担当者10人、マスコミ関係者など200人以上がひしめき合っていました。

冒頭、会場に積み重ねていた内閣総理大臣と経済産業大臣宛の署名を提出しました。その後、事前に提出していた関係省庁の大臣への質問に対する回答を口頭で受けました。

出席していた行政担当は次の通りです。

- 内閣府
 - 原子力安全委員会事務局
 - 審査指針課、管理環境課、規制調査課
- 経済産業省
 - 原子力安全・保安院核燃料サイクル規制課
- 農林水産省
 - 消費安全局畜産安全課、水産庁漁場資源課、水産庁研究指導課、技術会議事務局技術政策課
- 環境省
 - 水大気環境局大気環境課

行政担当者からの回答は、非常に事務的なものでした。「日本原燃からの再処理工場稼働に向けた申請については何ら問題がないと評価した」という経産省の回答に会場は騒然とし、意見交換は平行線のまま推移しました。しかも、回答の内容が参加者に分かりにくいものであったため、国会議員の口添えもあり、2週間以内に文書で回答を届

けてもらうという確約を取り付けました。その後も、「新潟県中越沖地震による柏崎・刈羽原発の倒壊で活断層の存在が明らかになり、耐震性が見直され新指針が策定されている。六ヶ所再処理工場付近の活断層が明らかになつているにもかかわらず、旧指針での申請を認可するとはどういうことか」「本来環境省が受け持つ環境モニタリングの権限が再処理工場に与えられているのはなぜか」「経産省は再処理工場を動かすシステムを作っているにすぎない」など、参加者や国会議員からの質問や意見が途絶えることなく、予定の2時間を大幅に超えて閉会しました。

今回の署名提出行動は六ヶ所阻止ネットの運動の一つの山場でした。今後、「本格稼働を阻止する」という大きな目標に向かって、もう一段の取り組みの必要性を共有した集会でした。

チェルノブイリ原発事故から22年 —被災者の苦しみは今も—

1986年4月26日に起こったチェルノブイリ原発事故によって大量の放射能が放出され40万人以上の人々が被災しました。グリーンコープはこの22年間、白血病やがん苦しむ人々の医療支援などに取り組んできた「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」を支援してきました。

2007年度、組合員から寄せられたカンパは現地調査団と検診団の派遣や医療品、医療器具の購入などのために使われました。今年も「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」に連帯して、支援の輪を広げていきましょう。

詳しくはカタログGREEN51号（3月3～8日配布）と同時配布のチラシをご覧ください。

問い合わせ先
NPO法人チェルノブイリ
医療支援ネットワーク
福岡県遠賀郡水巻町下二西
3-7-16
TEL 093-203-5282
FAX
E-mail jim@cher9.to



エコで検診して甲状腺がんかどうかを調べる
現地の医師

うちの生産者

82

熊本県天草市
農事組合法人
佐伊津有機農法研究会

うちのメーカー



一年前の花の実と、今年の花が同時に見られる河内晩柑

中晩柑

ジューシーで 香り豊か



ほんかん、伊予柑、ネーブル、文旦…。甘酸っぱい香りとジューシーな果汁が口いっぱいに広がる。柑橘類の中でも、冬から春、初夏にかけておいしいのが、中晩柑（温州みかん以外の柑橘類）。有機農法にこだわった、おいしい中晩柑を作り続けている熊本県天草市にある農事組合法人・佐伊津有機農法研究会（以下、佐伊津有機研）を訪ねた。

見かけは少々悪いけど、中身は抜群においしいよ！

減農薬を心がけ、甘くておいしいみかんを作れるよう頑張ってます！

食べてみて評価してください

事務局長 明瀬 文男さん

会長 田中 則男さん

副会長 山下 作吉さん

佐伊津有機研が誕生したのは1984年、農協の一部会としてのスタートだった。当時、農協が開拓した農地に汚染されていた土地を生かす。佐伊津有機研が誕生したのは1984年、農協の一部会としてのスタートだった。当時、農協が開拓した農地に汚染されていた土地を生かす。

100haの造成地に何をやるかが検討された。結果、農業や除草剤にまつた汚染されていないという利点を生かして、田中さんら数人が有機農法で柑橘類を栽培することになった。当初はセミノール（中晩柑の一種）と河内晩柑の2種類からスタートした。同時期、グリーンコープの前身生協と提携する生産者の紹介で柑橘類の他に野菜の産直を開始、組合員に届けはじめた。その後、試行錯誤を続けながらも徐々に出荷品目を増やしていった。

1993年、天草の各農協の合併を機に、有機農法の方針を貫くため農協から独立、農事組合法人となった。事務局長の明瀬さんはこの時農協から移り、事務の仕事を引き受けた。会の方針に賛同するみかん生産者や野菜生産者も加わり、現在会員は51人。佐伊津有機研は有機農法にこだわり、柑橘類の栽培に化学肥料は一切使用しない。また、農薬も有機認証で認められているものなどを中心に最低限使用するだけである。収穫が近づくともう一切しない。しかし、有機農法を継続するにはさまざまなリスクが伴う。病害虫の発生や規格外品の問題などだ。特に河内晩柑は春から夏にかけて出荷するため病害虫がつきやすく、見かけも悪くなる。しかし味には問題はない。はじめた頃は敬遠されがちだった有機農法も今では理解が深まり受け入れられるようになった。

ぼんかん

生産者の名に付いた「かにシール」の由来は「急がずボチボチやろう」と、郷土料理「がね揚げ」に形が似ていることから決めた

産直農産物 熊本・天草 さいつ 明瀬 勲

「食べてくれる人がいるからこそ、自分たちの農業も前にすすむことができる」という姿勢で佐伊津有機研のメンバーはおいしいみかん作りに励んでいる。



山あいの斜面にある伊予柑畑

台所まで責任を持ちたい」と考えたからだ。袋に生産者名を印刷してあるシール、同封するアンケート用紙に記したものがあある。アンケートの回答に元気づけられることも多い。「時々、「感謝」という言葉をいただくことがあります。買っていただけて感謝されるなんて、産直でないとならないことです。グリーンコープとの産直関係によって、食べてくれる人の顔が見えることがうれしい」と明瀬さんは言う。「食べてくれる人がいるからこそ、自分たちの農業も前にすすむことができる」という姿勢で佐伊津有機研のメンバーはおいしいみかん作りに励んでいる。

佐伊津有機研の中晩柑出荷スケジュール												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
河内晩柑												
甘夏												
文旦												
清見												
ネーブル												
伊予柑												
ぼんかん												

天草の地に根ざして有機農業を伝えたい。全国の農村の例に漏れず、佐伊津有機研でも、後継者不足が深刻な問題だ。生産者の平均年齢は60歳を超え、伝え、引き継ぐべき若い世代は地元にはいない。また、いたとしても農業だけで二世帯分の収益は望めないの、子ども世帯は他の仕事をしていることが多いという。「一戸一戸の農家の継続というよりも、地域としての後継者を育てていきたい」と田中さん。「天草の地に根ざして、ずっと有機農業を継続させていきたい」。これが佐伊津有機研のメンバーの夢だ。天草の豊かな自然と温暖な気候が生み出す、安心でおいしい中晩柑を届けるため、一つひとつに愛情を込めて収穫を続けている。

運動の めざして 共同体が本格始動

将来に向けてグリーンコープがグリーンコープであるために「グリーンコープ共同体」が2007年9月に設立、以降5ヵ月にわたって、グリーンコープ共同体として本格的に動き出すための準備がすすめられてきました。共同体としての具体的な歩み方、組織の構築の仕方などを確認・共有する場として、2008年1月16日グリーンコープ共同体結成大会が開催され、組合員・職員ら約600人が参加しました。

冒頭、共同体代表理事・吉田文子さんからの挨拶、次いでグリーンコープ生協みやぎき理事長・杉尾紀美子さんから共同体設立後の組合員検討についての報告、共同体専務理事・東原晃一郎さんからの報告がありました。結成大会をおして、共同体を構成する14の単協とグリーンコープ連合が一つの場を共有し、改めて共同体設立の意義を確認することができました。

終了後、別会場で、グリーンコープの各単協の業務責任者や支部長・センター長約200人が初めて一堂に会し、経営を支える者としての力強い決起集会が開催されました。グリーンコープのこれまでの20年を踏まえ、創設の意志を貫くグリーンコープ共同体の力強い土台作りが名実ともにスタートしました。

単協からのアピール



グリーンコープ共同体設立から現在まで、 そして2008年の取り組みの報告

グリーンコープ共同体専務理事 東原 晃一郎さん

グリーンコープに参加する組合員、働く職員、同伴するワーカーズやメーカー・生産者への理事会の最も大切な責任は「設立の原点を全うし、生き抜いていくこと」だと言えます。これからの時代を十分に見過して、この責任を着実に、グリーンコープ共同体は発足しました。

設立総会以降、グリーンコープ共同体の形成がどのようにすすんできたか、その概略と発足後直ちに行ってきたことは、以下の通りです。

(1) 歴史や生い立ち、規模の異なる各単協が共に組合員活動を行っていくための検討を行い、組織課題・運動課題・共同体委員会のあり方・地域組合員総会についてまとめました。

(2) 働いている現場のみんなが、働きやすく成果を出せる職場作りを、専務を

ります。20周年記念キャンペーンのための原資は、グリーンコープのメーカー・生産者から共に歩むものとして協賛いただいたことをきちんと受け止めます。

(4) 各単協とグリーンコープ連合の職場が一つのグリーンコープ事務局を構築し、同時に組合員活動においてもグリーンコープ共同体の全体的連帯を準備していきます。

2008年度の取り組み方針

以下の取り組み方針を共同体理事として検討し、これから各単協理事会での検討を行います。

(1) これまでは、ある程度の幅で「あれはグリーンコープ連合の取り組み方針、これが単協の方針」というように切り分けられてきました。今後は、「グリーンコープ共同体と各単協・連合の





グリーンコープ さらなる飛躍を グリーンコープ共同



グリーンクラブ会長
矢野 悦生さん

共に力をつけて 将来を切り開く

組合員や職員の方のパフォーマンスやアピールはユーモアたっぷり、しかも言うべきことはちゃんと押えられていて、その元気さとエネルギーはほんとうにすごいと思いました。そして、会場を包む一体感に、グリーンコープ共同の強い始動を感じました。

グリーンコープさんの社会的信用はとても大きく、グリーンコープさんと取引をしているということだけで、金融機関などの信頼につながっています。このように、グリーンコープさんが社会的に信頼されるのは、組合員さんの必要とする情報や求めるものを最優先とする考え方、一貫した情報公開をしていることにあると思います。

共同体は「人・物・資金・ノウハウ」を一つに集めて、情報の共有化を一層大切にしながら発展していけるのだと思います。私たち生産者やメーカーもそのことを十分に理解し、共同体のメンバーの一員として商品の開発や納入に応えていきたいと考えています。

また、これまでに甘んじることなく新たな取引関係を作っていくためにも、力をつけていくことを課題として努力していきたいと思っています。

グリーンコープ共同体設立
総会後、各委員会の委員長や
各単協の理事長を中心に、組
合員組織のあり方について検
討を重ねました。まずは、委
員会や単協の歴史などそれぞ
れの組合員組織を知ることか
らはじめました。その過程で
共同体としてめざす組合員組
織や運動が鮮明になり、その
方向が見えはじめました。そ
して、一緒に共同体を築いて

いく気持ちの一致も一層強
く生まれました。課題は以下
のとおりです。
組織課題：「出資・利用・運
営」の三原則を伝え共有す
る。「地域組合員総会」を2
010年までに全単協で開催
する。また、運動を伝えてい
く活動組合員を増やす。新規
加入者フォローの雛形を共同
体として作り出す検討を開始
する。

運動課題：2008年度の大
きな課題を「食べもの」「環
境」とし、「食べもの」とし
て、農業問題や遺伝子組み換
え問題に取り組む。「環境」
として、せっけんの取り組み
とCO₂削減に取り組む。
共同体の委員会：単協の活動
を支えるために取り組みの原
点に戻り、課題を整理し理事
会より付託された課題に取り
組む。

ていねいに精力的に、 組合員の思いをつむぎ重ねる

はじめ責任を持つ立場の人
たちがこれまで以上に真剣
に取り組めます。同時にグ
リーンコープ全部で60カ所
のセンター業務をよくして
いくための点検作業に取り
かかります。
(3)20周年記念アウターキャン
ペーンなどを生かして、非
日常（これまでの日常の実
績を大幅に上回る）の組合
員拡大に取り組む、それ
を実現することは大幅な供
給増を生み出すことにもな

取り組み方針とが、二つに
して一つのもの」として展
開できるようにしていま
す。もちろんどこから切っ
ても同じ金太郎飴」のよう
な姿ではありません。取り
組みを具体的に活性化
していくのは、各地域の人
々です。そのような視点で
共同体委員会もより単協と
つながっていきます。
(2)グリーンコープ共同体の基
調テーマである「農業」を意
識して、食べもの運動の一

総代会に向けて検討と準備
が行われています。また、
生活再生事業に並行して、
「家計とくらしの応援活動」
の取り組みが準備されてい
ます。その活動を支えるた
めのワーカース設立に向け
ての検討もすすんでいます。
今後は福祉活動組合員
基金（100円基金）の全
地域での開始と発展に向け
て検討も行います。
(5)これらの活動をすすめてい
く組合員組織の土台をしっ

79,886人の新しい組合員の加入を目標に



各単協の専務理事、業務責任者、センター長、支部長が一堂に会した

最後に共同体白木常務理事よ
り、「現場の業務責任者がこのよ
うに集まり、互いの強い意志を確
認できたことは大きい。グリーン
コープ20周年の取り組みに協賛し
ただいた取引先への責任も果たし
ていけると確認できた。グリーン
コープは20年前、15万人の組合員
でスタート、現在37万人の組合員
事業となっている。これからの20
年、60万人を超える組合員の実現
も業務責任者や支部長などの決意
があれば、必ずできると確信して
いる」という挨拶があり、「GR
EEN ACTION、頑張ろう！」
というシュプレヒコールで終了し
ました。

共同体の設立とグリーンコープ
20周年の取り組みを生かして、掲
げた目標を達成しようという意気
込みが会場に熱くみなぎってい
ました。

東原専務から「2008年、サ
ブプライム問題は世界・日本の経
済に大きな衝撃を与えており、グ
リーンコープ共同体のスタートに
とって、状況は決して甘いもので
はないことを覚悟しなければなら
ない。しかし、この一年をともし
て互いに支えあっていたら、20
08年の終わりにかなりの事柄
ができています。自分の力を精
一杯出すと同時に、互いの力を学
びあって今年度を乗り切り、次
向かう力を培っていききたい」と挨拶
がありました。

南はかごしまの鹿屋からおおさ
かの吹田、とつとりの米子など、
グリーンコープのエリア60カ所の
支部・センターから約200人が
参集しました。
それぞれの支部・センターの規
模は、職員とスタッフ4、5人の
まだできたばかりの所からワー
カースを含め100人を越える大
所帯などさまざまです。
各単協ごとに単協やセンターの
紹介と「非日常の拡大」である、
平均1.47倍の新しい組合員の加
入目標にチャレンジしていく意気
込みをアピールしました。
掲げられている各単協の拡大目
標数の合計は、79,886人。
「数字の大きさに、一瞬ひるむ場
面もあったが、自らが立てた目標
であることを確認しあい、必ず達
成するとみんなで覚悟した」、「こ
の場で意思表示すること、改め
て気が引き締まった」という言葉
もありました。

グリーンコープ共同体の業務責任者や センター長・支部長が力強く決起集会

ように頑張っています。



さとうきび畑の向こうに広がるのはネグロス島で一番高い活火山のカンラオン山



〈青果生産者の会からの参加者〉
林田 康一さん(南高有機農法研究会/グリーンコープ青果生産者の会会長)
松村 和則さん(肥後七草会) 原田 幸二さん(御岳会)
高野 一雄さん(豊肥アグリ企画) 高村 芳広さん(豊肥アグリ企画)
村上 久さん(やまびこ会) 松尾 高嘉さん(百姓倶楽部八女の郷)

ネグロスとグリーンコープの「農民」が初めて出会った

グリーンコープ青果生産者の会 ネグロス視察・研修

同じ農民

グリーンコープは、設立当初からフィリピン・ネグロス島との連帯・交流が続けている。最初は飢餓の島となったネグロスへの緊急支援からのスタート。その後、ネグロスの人々の自立への思いを受け「ネグロスの自立とは」「ほんとうの支援とは何か」を共に問い続け、少しずつ連帯の形を模索してきた。こうしてネグロスバナナやマスコバド糖とおした「モノ」そして「人と人」の交流は発展的、継続的に行われてきた。

グリーンコープ誕生から20年という節目の年、ネグロスとグリーンコープの生産者同士の出会いがはじめて実現。その交流のようすを紹介する。

ネグロス島は、設立当初からフィリピン・ネグロス島との連帯・交流が続けている。最初は飢餓の島となったネグロスへの緊急支援からのスタート。その後、ネグロスの人々の自立への思いを受け「ネグロスの自立とは」「ほんとうの支援とは何か」を共に問い続け、少しずつ連帯の形を模索してきた。こうしてネグロスバナナやマスコバド糖とおした「モノ」そして「人と人」の交流は発展的、継続的に行われてきた。

堆肥や有機肥料について学び、それを広めることによって、さとうきびで疲弊した大地や病虫害で壊滅したバナナ山を再び元気にしようという挑戦の真直中にあるのだ。日本の生産者はこのようにネグロスの生産者に「同じですよ。私たちもウイルスや病害といつも向きあっています」「丈夫な土、丈夫な作物を作ろう」と頑張っています」と応答。

さらに「酸性雨の問題はどうなっていますか?」「堆肥についてはどのように考えていますか?」など、初めて出会ったとは思えない程の盛んな質疑応答が展開された。

カネシゲファームでは、自慢の堆肥センターを見学。責任者のモベンさんから「日本では堆肥や有機肥料をどのようにして作っているのか、日本の堆肥作りを見学したい」など技術交流への意欲が出された。

また多くの農園では個人の生産者が協力して新しい作物栽培に挑戦、さらに他の農園と連携し、新たなマーケットの開拓を共に模索している。

堆肥や有機肥料について学び、それを広めることによって、さとうきびで疲弊した大地や病虫害で壊滅したバナナ山を再び元気にしようという挑戦の真直中にあるのだ。日本の生産者はこのようにネグロスの生産者に「同じですよ。私たちもウイルスや病害といつも向きあっています」「丈夫な土、丈夫な作物を作ろう」と頑張っています」と応答。

さらに「酸性雨の問題はどうなっていますか?」「堆肥についてはどのように考えていますか?」など、初めて出会ったとは思えない程の盛んな質疑応答が展開された。

カネシゲファームでは、自慢の堆肥センターを見学。責任者のモベンさんから「日本では堆肥や有機肥料をどのようにして作っているのか、日本の堆肥作りを見学したい」など技術交流への意欲が出された。

また多くの農園では個人の生産者が協力して新しい作物栽培に挑戦、さらに他の農園と連携し、新たなマーケットの開拓を共に模索している。



バナナを保護するための袋掛け作業。危険な仕事で若い生産者やATCスタッフが手伝うことも多い

同じ痛み

ネグロスバナナをテーマにした交流の場では、「規格(出荷不可の基準、サイズや表面の傷)に合わないバナナでもおいしく食べられるものもあるのに出荷できない」という声があがられた。これには事業者であるATCがいていいに回答。ネグロスで採れたバナナを日本まで運ぶことの難

しさや日本とネグロスで取り決めた規格などの諸条件をクリアすることが必要であることなど、詳しく説明した。日本の生産者も心に響くものがあり、「私たちも同じ痛みを知っています。だから規格に合わない作物ができてしまった時には、この失敗を二度としないぞ、というエネルギーに変えて頑張っています」とエールを送った。

出会いを広げていくために
最後の晩、ネグロスと日本の生産者、ATCのスタッフが一室に会し、この2日間を振り返った。日本からは、「土の中で作物はどうやって育つのか、微生物がどう土を育てているのかを学び、元気な土で元気な作物を育てましょう。それが私たちの作物を食べてくれる人たちの、そして私たちの喜びになるはずですよ」

「土、太陽、空気、水、そして生産者の創意工夫があって営まれる農業。グリーンコープの農業政策をネグロスのみなさんに知ってもらいたい。私たちにとっても初心に返ることができた旅となりました」などの声が発せられた。ネグロスの生産者からは、「さとうきびだけに頼らない生活にしたい」「日本の農民もお互いに学びあっていることを知った」「日本の台風への対応はどんなものか」など発言。交流は遅くまで続いた。

最後に、ATC生産部長のリンダさんは「非常に有意義で、しかも具体的な話しあいでした。同じ生産者同士学ぶことが多かった。今回の出会いで得たことを自分の中にしまい込まず、仲間を広げていくってくださ」と述べた。こうしてネグロスと日本、二つの国の同じ生産者同士、土と向きあい、そして作物をとおして消費者や組合員と向きあっている仲間であることを確認。今後の交流に希望が持てる旅となった。

ネグロス視察・研修行程	
11月29日(木)	福岡→マニラ→ネグロス(バコロド市内泊)
30日(金)	バナナ生産者訪問 ランタワン ナギスロット バナナバックグセンター訪問タリサイ
12月 1日(土)	集団農園訪問 エスベランサ農園 カネシゲファーム 青果市場訪問 (バコロド市内) ATC本社訪問 (バコロド市内)
2日(日)	ネグロス→マニラ→福岡

※1ネグロス島で自前の地域流通システムをつくることをめざし、1987年に設立された会社。グリーンコープ連合会専務理事 兼重さんの名にちなんだ



女性生産者の思いを語る西郁美さん

びん牛乳に込めた思いは同じ！

びん牛乳生産者女性部会との交流会

2007年12月3日 熊本県菊池市

今年度で3回目となる交流会には生産者37人、日本ミルクコミュニティ(株)から2人、熊本県酪連から2人、JA菊池から5人、グリーンコープからは共同体産直・交流委員をはじめ組合員20人が参加しました。

「生産者は飼料の高騰など厳しい状況の中、乳質を高めるために日々努力をしています。この交流会をとおしてびん牛乳のより一層の利用につながることを願っています」と生産者会委員長の矢野桂吾さんの挨拶ではじまりました。グリーンコープ共同体産直・交流委員長の本河しのぶさんから、「みなさんとの交流会は生産者と消費者というだけではなく、同じ女性として、母親として、妻としての交流だと思っています。そして、そのつながりをもとにびん牛乳のさらなる利用拡大へつながっていきたいと考えます」と挨拶がありました。

この交流会は、生産者とグリーンコープの産直関係を深めるための学習会と位置付けられています。まず今年度の酪農ホームステイのようすをまとめたDVDなどを視聴しました。「ほんものの牛の大きさや動きに圧倒されながらもあらゆることに興味津々な子どもたちがとてもかわいかった。また来年のホームステイが楽しみですよ」と、坂本博子さんが子どもを受け入れた時のようすを話しました。グリーンコープの4単協(さが・くまもと・おおいた・かごしま)からは、びん牛乳の利用普及の取り組みのようす、日本ミルクコミュニティ(株)からはびん牛乳製造工程の映像に沿って、それぞれに報告がありました。

生産者の西郁美さんから、「三人姉妹の長女だったため継継者となりましたが家を火事で失い、さらに

は台風で牛舎が倒壊、近年は自分が病を患い、個人的にも大変なことがいろいろあります。でもびん牛乳はおいしいねと言われるとすごく嬉しくて続けてよかったと思います」とユーモアを混じえた話がありました。

懇親交歓会はもちろんびん牛乳で乾杯。交流はなかなかすすみ、日々の暮らしのこと、後継者のこと、まで話は及びました。夫たちに比べてさまざまな行事に参加する機会が少ない妻たちが、この交流会への参加を楽しみにしているようすが伝わってきました。

今回の交流会は、女性生産者の元気で柔軟な生き方、組合員のびん牛乳への思い、びん牛乳工場のようなすを相互に伝え共有しあう貴重な時間となりました。また、このような出会いを重ねることが、びん牛乳の利用拡大へつながると確認できる交流会でした。



交流会の前半は、学習会。それぞれの立場からの報告や意見交換が活発に行われた。後半は会場を移して懇親交歓会が行われた

報告

バングラデシュ・サイクロン被害に たくさんの救援金が集まりました

カンパ総額

7,814,171円

カンパ金は、日本赤十字社、AMD A (アジア医師連絡協議会)、ユニセフをとおして被災地に贈られました。



北九州市
池上 和子 (70歳)

言・い・た・い

投稿欄

翁草

私の好きな花

もう一度会ってみたい
花、翁草は鮮やかな深紅のチューリップに似た小さな六弁花です。幼い頃北朝鮮にいた時、春の暖かい陽射しの中、小高い松林の中で見つけました。遠い昔の思い出です。

幻の花を探して何度か野草展に出かけましたが、あのドッキリするような艶やかな赤い色にお目にかかれなくて残念です。花も葉も茎も真っ白い繊毛におおわれていて、花が終わるとおじいさんの髭のように長毛が風になびきます。

盛岡の宮沢賢治記念館に行ったら折、見事な写真を見つけた、早速調べてみると、山歩きの人か掘って持って行くのか、最近では見かけなくなったとのことでした。

言・い・た・い 読者投稿欄

新テーマで募集中

グリーンコープ20周年を記念した
新テーマでの投稿を募集します

- グリーンコープ誕生20年によせて
グリーンコープに加入したきっかけなど
- 私の好きなグリーンコープ商品
お気に入り商品にまつわるエピソードなど

- 400字程度 ●〆切 毎月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル7F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

とっておきの一枚

みずきお姉ちゃんがだ〜いすき！



開登くん(1歳の頃)

1歳になったボクは、みずきお姉ちゃんがだ〜いすき！ご飯をお口に入れてもらったり、一緒におもちゃで遊んだり毎日楽しい！お名前を呼ばれると「ハ〜イ」と手をあげてお返事するゴキゲンな男の子です。

熊本県合志市 山崎 由紀 (38歳)



No.8

プルサーマルの危険性と問題点

佐賀県玄海原発で計画されている「プルサーマル」とは、プルトニウムとウランを混ぜた核燃料(MOX燃料)を現在の原発(軽水炉=サーマルリアクター)で燃やすことです。玄海3号炉には、長崎に投下された原爆にも使われ、100万分の1gで肺がんを起こさせる猛毒物質プルトニウムが、2tも使用される計画となっています。もともとウランのみを燃やすために作られた原発(軽水炉)でMOX燃料を使用すると、平常時の原子炉の運転制御を難しくさせたり、燃料棒の破損発生の可能性を増加させるなど安全性が低下し、事故時の対応が難しくなります。特に玄海3号炉で使用予定のMOX燃料はプルトニウムの割合が多く、世界でも経験がなく危険なものです。

プルサーマルで事故が起きたら一体どのようなことになるのでしょうか？！

「プルサーマルと核のごみ」―講師・小出 裕章さん―
2005年10月28〜30日の講演会講演録より引用―

グリーンコープ共同体組織委員会

いま地域を考える

No.187

子どもたちの笑顔が見たいから



福島朋子さん 播磨照子さん 黒田明穂さん



風情ある白壁の、のどかな町並みを残す岡山県倉敷市に、絵本の読み聞かせをするグループ「岡山よみきかせの会」(以下よみきかせの会)がある。立ち上げ当初からかかわってきた福島朋子さんと、黒田明穂さん・播磨照子さん(グリーンコープ生協おかやま組合員)に話を聞いた。



食い入るように見つめ、話を聴く子どもたち
(夏休みのお楽しみ会)

「読み聞かせの会」は、全国のあちこちで活動している。自分自身が子どもの頃好きだった本や、大人になってあらためて出会った絵本の楽しさを、子どもたちに伝えたいと思う人は多い。

「読み聞かせの会」は、お楽しみ会もする。仕掛け絵本や大型絵本の読み聞かせ、紙芝居、ペープサート、寸劇、ストーリーテリング(おはなしの語り)など。昨年は50人程の子どものために夏休みの学校図書館に詰め掛けた。にわか劇団による「大きなかぶ」のお芝居は、ぶっつけ本番にもかかわらず会場を沸かせた。「先生たちの方が喜んでいたらいいな」と3人は顔を笑わせた。その先生たちから「いろいろと参考になりました」と言われた時、新たなやりがいを感じ、学校がより身近に思えるようになっていった。

「自分が楽しむことが一番」。絵本の内容ももちろん大切だが、大人が楽しむ姿を見るのが、子どもは好きなのだ。そして、子どもたちの楽しむ様子を見るのが、何よりうれしい。「子どもたちはおもしろい時はおもしろい顔、つまらない時はつまらない顔を見ます」。喜ぶ顔を見ると自分たちが自身がいかに楽しんでいるかがよくわかる。それが活動の原動力だ。「無理をしないと続かない。無理をしない程度の息の長い活動にしたいと思っています。それが長続きの秘訣かな」と福島さんに負けない。私たちがフツーのおかあさん。大それたことをしようとは思っていません。自分たちが楽しいからやっているだけです。続けさせてもらえるなら、ずっと続けたい、もうやめてくださいと言われたい。

よみきかせの会はこれからは時間の隙間を縫いながら、ゆったりとした地域の潤滑油となって、子どもたちの大切な未来を育んでいく。

「ボランテアで本の読み聞かせをするグループが、全国のあちこちで活動している。自分自身が子どもの頃好きだった本や、大人になってあらためて出会った絵本の楽しさを、子どもたちに伝えたいと思う人は多い。」

「読み聞かせの時間は朝の貴重な10分間を豊かな時間にするのがよみきかせの会メンバーの技の見どころだ。「朝の10分間だからできるんです。無理をしないと続きません」と微笑む福島さん。ひとつのクラスに「単独で乗り込む」。低学年とはいえ、何十人もの子どもたちを前に一人で立つのはなかなか勇気がいることだった。はじめの頃は緊張したが、今では「おぼちゃん誰でしょう?」と、おどけることができるくらいに馴染んでいる。「みんなよく聞いてくれます。時々やんちゃ坊主もいますが、自然に子ども同士で注意してくれますし、背中を向けたら、手遊びをしている子も、ちゃんと意識しているのが分かります。興味が出てきたら、だんだん子どもたちが前のめりになってじりじりと迫ってくるんです」。読み聞かせをしていて手ごたえを感じるのはいまの時だ。

季節感のある本や図書館司書の推薦本、もちろん自分の好きな本など、子どもたちの笑顔を思い浮かべながら絵本を選ぶのも大切な時間だ。

夏休みやクリスマスには、お楽しみ会もする。仕掛け絵本や大型絵本の読み聞かせ、紙芝居、ペープサート、寸劇、ストーリーテリング(おはなしの語り)など。昨年は50人程の子どものために夏休みの学校図書館に詰め掛けた。にわか劇団による「大きなかぶ」のお芝居は、ぶっつけ本番にもかかわらず会場を沸かせた。「先生たちの方が喜んでいたらいいな」と3人は顔を笑わせた。その先生たちから「いろいろと参考になりました」と言われた時、新たなやりがいを感じ、学校がより身近に思えるようになっていった。

「自分が楽しむことが一番」。絵本の内容ももちろん大切だが、大人が楽しむ姿を見るのが、子どもは好きなのだ。そして、子どもたちの楽しむ様子を見るのが、何よりうれしい。「子どもたちはおもしろい時はおもしろい顔、つまらない時はつまらない顔を見ます」。喜ぶ顔を見ると自分たちが自身がいかに楽しんでいるかがよくわかる。それが活動の原動力だ。「無理をしないと続かない。無理をしない程度の息の長い活動にしたいと思っています。それが長続きの秘訣かな」と福島さんに負けない。私たちがフツーのおかあさん。大それたことをしようとは思っていません。自分たちが楽しいからやっているだけです。続けさせてもらえるなら、ずっと続けたい、もうやめてくださいと言われたい。

よみきかせの会はこれからは時間の隙間を縫いながら、ゆったりとした地域の潤滑油となって、子どもたちの大切な未来を育んでいく。

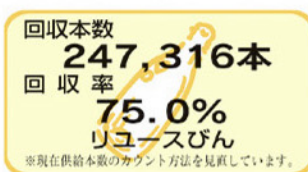
放射能汚染測定結果報告(173) 2008年1月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。
※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※ レモン	瀬戸田	ND	ND	ND
※ かつお	太平洋	ND	ND	ND
※ やりいか	ベトナム	ND	ND	ND
※ りんご	青森県	ND	ND	ND
※ りんご	長野県	ND	ND	ND
※ もずく	沖縄県	ND	ND	ND
※ 島原わかめ	長崎県	ND	ND	ND
※ 三陸わかめ	岩手県	ND	ND	ND

リユース リサイクル データ

2007年12月分



2008年1月の組合員数 383109人 (1/20現在)

グリーンコープ生協ふくおか
グリーンコープ生協さが
グリーンコープ生協(長崎)
グリーンコープ生協くまもと
グリーンコープかごしま生協



グリーンコープ生協おいた
グリーンコープ生協みやざき

グリーンコープ生協おおさか
グリーンコープ生協ひょうご
グリーンコープ生協おかやま
グリーンコープ生協とっとり
グリーンコープ生協(島根)
グリーンコープ生協ひろしま
グリーンコープやまぐち生協

子どもたちから届けられたお礼のカード